公益社団法人霧島青年会議所　２０１９年度　第二回理事会　議事録

開 催 日：平成３１年２月２７日（水）

開会時間：２０時１５分

閉会時間：時分

開催場所：ＪＣ会館

1. 開会宣言　　　　　　　　　　　　　　　　　　　鈴吉　美絵　　君
2. JCIクリード唱和　　　　　　　　　　　　　　木野田　幸平　　君
3. JCIMISSION及びJCI Vision唱和　　　　　　田上　俊介　　君
4. JC宣言文朗読並びに綱領唱和　　　　　　　　　　盛田　啓仁　　君
5. 霧島JC未来ビジョン唱和　　　　　　　　　　　　重野　隆太　　君
6. ２０１９年度スローガン唱和　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　同上
7. 理事長挨拶

理事長　藏元　国明君

1. 直前理事長挨拶

直前理事長　前田　数馬君

1. 顧問挨拶

顧問　竹下　圭一郎君

１０． 議長選出

審議事項：理事長　藏元　国明

協議事項、報告事項：専務理事　南郷　英俊４

１１．議事録作成人並びに署名人の指名

議事録作成人：南郷財政局長

　　　議事録署名人：鈴吉副理事長、重野委員長

１２．出席者及び定足数の確認

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 藏元国明 | 〇 | 鈴吉美絵 | ○ | 木野田幸平 | ○ | 田上俊介 | 〇 | 重野隆太 | 〇 |
| 板元幸仁 | 〇 | 盛田啓仁 | ○ | 前田大悟 | × | 南郷英俊 | ○ | 橋正貴 | × |

　　理事１０名中８名出席により定足数を充たしていることを確認した。

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 前田数馬 | 〇 | 竹下圭一郎 | 〇 | 井上正樹 | ○ | 常盤大和 | ○ |
| 東井上陽平 | × |  |  |  |  |  |  |

　　役員５名中、４名出席により定足数を充たしていることを確認した。

１３．議題並びに資料の確認

審議事項４件　　協議事項４件　　連絡・報告事項３件　となっております。

１４．議事録承認の件

田上　　：確認しまして、不備なきことをご報告させて頂きます。

盛田　　：確認させて頂きましてしっかり作成されておりました。

１５．議題

審議事項１：仮会員承認について（松元　貴洋君）の件

　　：

　：

　　：

審議：全会一致で審議可決

審議事項２：仮会員承認について（永田　純一君）の件

　　：

　：

　　：

審議：全会一致で審議可決

審議事項３：４月例会計画書並びに予算書（案）の件

　　：

藏元　　　：審議

審議：全会一致で審議可決

審議事項４：２０１９年度啓発事業　広報誌政策計画並びに予算（案）の件

木野田　：啓発事業となります。会員のお金を使用して事業を行うなかでありますが、今回審議頂くにあたりゲラを付けておりません。審議後に対談、製本と考えておりますが、内容については参考に追加してあります。詳細は委員長よりご説明させて頂きます。

板元　　：臨時正副での意見対応をさせて頂いております。内容については広報誌の作成とさせて頂いております。ご意見・ご質問がありましたらお願い致します。

井上　　：中身に関して話の内容で変わってくるとのことではあったのですが、項目の流れなどの資料はないのですか？

板元　　：９番項の事業内容に記載していますが、中身が１０Ｐで作成しようと考えております。

井上　　：実際に対談して構成的にはわかるのですが、形がしっかりと出来てから修正議案で上程する流れですか？

板元　　：副理事長からもありましたがゲラのない状態での審議ですので、改めて修正議案として上程を予定しております。

重野　　：配布方法は会員が一人５枚を手配りして余りはＪＣ会館に置いておくで良かったでしょうか？

板元　　：はい。その様に考えております。

重野　　：いきなり５枚渡されて困る会員もいると思いますので、事前に意見を聴くなど工夫をしてください。

竹下　　：今日で審議を取らないといけない理由を教えてください。

板元　　：広報誌を使ってＪＣの説明資料として使いたいと思っております。

竹下　　：この広報誌をやる前提ですよね？そもそもなぜ広報誌が必要な理由はなんですか？広報誌がないと出来ないのですか？

板元　　：広報誌があることでより良くなると考えております。活動内容や想いについて紙媒体におこすことで、会員が説明しやすくなると考えております。

竹下　　：では、今までやっていたパンフレットと広報誌の違いはなんですか？

板元　　：パンフレットとは同じにならないように考えております。会員紹介や首長とまちづくりに関する対談を盛り込むことで青年会議所の広報が出来ると思います。

竹下　　：説明をする資料を作るのですか？目的は何ですか、会員がＪＣを説明するツールとして作るのですか？

板元　　：目的は対外の認知度を高めると考えております。直接話すことで認知度は高まると思っております。今のＳＮＳは同時進行で続けていく必要はあります。

竹下　　：本質を語っていくうえで、順番をしっかり組み立ててください。広報誌を作る前に必要なものがある。誰がどのように推進するのですか？広報誌の共感を得るために動いてくれる人がどれだけいるの？会館に眠っているのが目に見えている。費用対効果が薄いのは優先順位で戦略がないから。この議案の中で、配布に関する戦略はどこに書いてありますか？どうやったら広報誌を皆が活用してくれるのかを教えてください。

板元　　：配布に関しては、配布方法に記載のところしか考えておりませんでした。

竹下　　：急いで作るより、活用方法が重大だと思いませんか？活用方法がない議案を審議通して何の意味があるのですか？

木野田　：活用方法としましては、霧島ＪＣの会員と拡大に関して意識を変えていく部分について広報誌を使いながらやっていきたいと考えております。

竹下　　：その中のどこに戦略があるのですか？委員会の今年の祐担いはなんですか？

板元　　：この広報誌に関しては、会員が対人との広報説明として作らせて頂いておりますが、アンケートもとらせて頂き、ＳＮＳでの部分になりますが、どの時間帯に何のツールで情報収集されているかを調査に基づき効果的な時間に更新することが戦略という風に考えております。

竹下　　：結論をいうとこの議案は意味がない。この委員会は、広報戦略を立てる議案を作成しないといけない。その中で広報誌があるのは良いが、広報誌だけの議案ではない。だから順番が違うという風に言っている。まず広報戦略の議案を作らないといけない。戦略をもった広報になってないので。急いで審議をとる意味がわからない。

板元　　：広報誌も含めて戦略と考えているのですが、予算が発生するので広報誌に関して考えておりました。

竹下　　：それだとハロウィンやりますという中でキッズパレードの議案しか出てないのと同じ。もう一度頭を整理して順序立てて計画を作った方がスピードははやい。完璧なものができたら１発で審議が取れる。今強引に審議を通しても想い描く結果は絶対届かない。

木野田　： 副理事長という立場でありながら私の認識不足で申し訳ないのですが、予算が発生する中で計画としましては、どの様に配布するのかを計画立てていけば良いのでしょうか？

竹下　　：大枠があっての小議案、ファンクションがある。広報戦略という大枠の中で小議案として広報誌などＳＮＳなどの手法的な部分が入ってくる。手法の部分審議ならまだわかるが、大枠の広報戦略がない。予算が発生しなくても組織の存続・組織のイメージについては定款にないので議案にださないといけない。それを検討していくのが理事会

木野田　：ありがとうございます。１回で通すつもりで作成して参ります。取り下げとさせて頂きたいと思います。

藏元　　：只今、副理事長の方より審議取り下げの同義がありました。意見のある方はいらっしゃいますでしょうか？

井上　：今後のスケジュールについては執行部、副理事長と話してもらえましたらと思います。戦略について１から作り直すのか？そこら辺を顧問も含めてやった方が良いのかなと思います。

常盤　　：通さなければいけない理由としては、市長などアポイントを取っているなかでという点もあるかと思います。ネット上で配信などは、審議を取る必要もありませんので、一度整理してなぜ急がないといけなかったのかを考えて対応頂きたいと思います。

前田　　：今顧問から出た意見に関しては、正副の意見としても出ております。効果的な広報とは、どの様なものなのか。とってもらう工夫は？という部分に関しては、会員が一人５冊配ると変わりましたが、本当にそれで大丈夫ですか？と思うところはあります。議案に対して覚悟をもって進めて頂けましたらと思います。

藏元　　：色々と意見を頂きましたが、もう一度猶予を頂いたということで、委員会がやる広報戦略ではなく霧島ＪＣ全体で取り組むことだと思いますので顧問・監事と意見を聞きながら進めていきましょう。

重野　　：休憩動議

セコンド：鈴吉、盛田

２１：５５までの休憩で可決。

協議事項１：２０１９年度　５月例会計画書並びに予算書（案）について

木野田　： 今回の方向性につきましては例会のみ、そして終了後に居酒屋の青春と考えております。詳細は委員長より説明します。

板元　　：２回目の協議となります。内容はシニアクラブとの合同例会と考えております。理事長挨拶の後にシニア会長の挨拶を入れる形となります。補足になりますが、先日シニアクラブ事務局の方からは、合同例会について了承いただいております。

重野　　：目的に会員相互の関係性を深めるとありますが、事業内容にシニアと関わるプログラムはなくシニア会長の挨拶のみで構築できるものでしょうか？

板元　　：そうですね。メインプログラムとしては設けておりません。工夫と効果のところにありますが、名刺交換や握手を行う等で会員相互の関係を深めようと思っております。

重野　　：シニアを対外対象者に分けてはどうでしょうか？

板元　　：今回は特別会員という形で考え対内対象者としております。

重野　　：折角のシニアの先輩との合同例会ですので、楽しみにしています。

盛田　　：アンケートに関してですが、２枚となっておりますので予算の関係上１枚にまとめてはいかがでしょうか？

板元　　：互換性の問題かと思います。わたくしのパソコンでは１枚となっておりますので印刷の際には気を付けたいと思います。

常盤　　：シニアとするということで、中身について詰めていっているかと思いますが、正直シニアクラブのＦＡＸ返信率が非常に悪いと伺っておりますので何かしらの工夫をお願いします。アンケートに関しましては、内容が薄いです。これではアンケートを取る意味がありませんので工夫や今後に繋げられる内容にしてください。

板元　　：シニアクラブへのＦＡＸについては、現役の方でＦＡＸ送信と集計、連絡を行う方向性で話を進めております。アンケートに関しては申し訳ありません。精査致します。

井上　　：居酒屋の青春に関して、シニアの先輩と拡大会議を開催とありますが、拡大リストは事前に準備して頂くような設えを行うのか？また、今回の合同例会だけで拡大に繋がるものではないと思いますが、その後のイメージがありますか？

板元　　：例会の前に今の会員の拡大の現状についてお目通し頂きたく思っています。今後、シニアの先輩と一緒にやっていけることなどを模索しようかと思います。

井上　　：折角の機会ですので、単発で終わらず、これをきっかけに今後、個別でも良いと思うので関係性が続いていくような仕掛けを考えてください。

板元　　：一度委員会の方に持ち帰って再考したいと思います。

竹下　　：この議案は、何に対して意見が欲しいのか教えてください。

板元　　：協議ポイントにも記載しておりますが、背景目的・手法について意見を頂きたいと思います。

竹下　　：全委員会認識頂きたいのですが、協議ポイントに書いているということは文章の書き方が変わると思って良いですか？例会をすることの議案の中で何に対して意見を求めているのか、わかりません。意見を求めたいのであれば、もっと詳しく何に対して意見をもらいたいのかを記載してください。なので、協議のポイントはシニアとの合同例会について等の記載をしなければ、何に対して意見が欲しいのかわかりません。仮にシニアとの合同で行う中で、シニア会長の挨拶が必要なのか？などであれば議事録やリサーチの資料がないので判断できません。

板元　　：議案書の１５番項を見て頂けましたらと思います。

竹下　　：背景が、この議案は例会をすることが目的となっているので、協議のポイントをこの様に記載すると何に対して意見をもらいたいのかわかりません。もっと具体的に記載してください。

藏元　　：この背景目的がダメということではなく、意見が欲しいポイントはどこですか？ということだと思います。この参加促進方法で人が来るのか？などであれば協議のポイントに参加促進と記載してもらえましたらと思います。

竹下　　：委員会として、不安に思う部分はどこなのか？意見をもらいたい部分はどこですか？

板元　　：ありがとうございます。参加促進についてご意見を頂きたく思います。直接的に関わりのない先輩方への対応方法などアドバイスを頂けましたらと思います。

竹下　　：勘違いしないで欲しいのは、理事会は議案を作る場所ではありません。もっと議案に向き合って、理事会を想定して議案を作らないと方向性もずれるし、何をやらないといけないのか見えてこないと思います。この議案に関して意見はありません。

前田　　：シニアとの交流会とのことで、近年なかった良い取り組みなのかなと思います。シニアの方々の参加促進で言えば居酒屋の青春をします。といってくるのか？懇親会なので議案に追加はしなくて良いのですが、どの様な流れでやるのかをしっかり組んで正副等に出してもらえましたらと思います。居酒屋の青春にもルールがあるのでもっとリサーチをしてください。例会と懇親会を切り離して考えていいのかなと思います。懇親会の方を討議で上げるなどしてもいいのかなと思いますので、次回までに再度委員会で考えて頂けましたらと思います。

板元　　：参考にさせて頂きます。

藏元　　：直前からもありましたが、別が良いのか委員会の方で話してみて最善の形で上程してください。懇親会の内容に関しては拡大大作戦とかでなく、関係性を深められる機会にして欲しいと思います。ビジネスの機会などとっつきやすい内容で考えてもらえましたらと思います。昔みたいにテーブルごとでテーマが違う形で行うなど委員会の方で考えてみてください。あと、監事から意見がありました今後についても話をさせて頂いております。

板元　　：参考にして再考させて頂きたく思います。

南郷　　：以上で、２０１９年度　５月例会計画書並びに予算書（案）を閉じさせて頂きます。

協議事項２：誰もが夢を描けるまちづくり事業計画並びに予算（案）について

田上　　： ２回目の上程となります。詳細につきましては盛田委員長より説明させて頂きます。

盛田　　：前回の正副、事前配信に関しましては黄色マーカーで対応しております。よろしくお願い致します。

南郷　　：予算についてですが今、見積もりがチラシとポスターしかありませんが、他の見積もりは今後とりますでしょうか？

盛田　　：コンテストの賞品などを考えておりますが、実際の事業で使用する予算についてはコンテストが終わった後に修正議案として上程したく思います。

南郷　　：今の賞品についてですが、コンテストの中で使用するということでしょうか？

盛田　　：見積もりの方を準備したいと思います。

鈴吉　　：コンテストをするということで、若い世代の人たちにコンテストを実施し、事業を実施するという流れでまちがってないでしょうか？

盛田　　：おっしゃられる通り、グランプリの事業を若い世代の人たちでやっていきたいと思います。

鈴吉　　：９番項が対外の人に記載されていると思うのですが、対内目的達成のための手法が見えないです。また前回の正副ではコンテストは、勉強会の後に実施や学校対抗で意見を出してもらうなどと意見がありましたが

盛田　　：学校単位でしてしますと姶良・湧水長など他の地域の巻き込みが難しくなるかと思います。

鈴吉　　：学校対抗にしないといけないわけではないのですが、指摘と対応の欄に関しては表現の修正をお願いします。

橋　　　：昨年のまちづくり事業は、コンテスト行ったところでありますが、どれぐらい案が集まったのか教えてださい。

盛田　　：昨年の数に関しては、まだ話を伺えていないところです。参考にさせて頂いているところとして、佐世保ＪＣや大橋ＪＣのまちづくり事業を参考にしておりましてまだ話は聞けてないのですが、今後話を聞く流れで考えております。

橋　　　：昨年もスムージーという割と考えやすい案件でありながらなかなか集まらない中で、まちづくりという題材の中で応募者がいるのか不安に思います。昨年と違った応募を集める工夫がありましたら教えてください。

盛田　　：昨年を参考にしておりまして、特にありません。他のＬＯＭの意見を反映する子で有効であると考えております。

橋　　　：鈴吉副理事長からもありましたが、コンテストに拘っていくのかを踏まえ委員会で話をしてもらえましたらと思います。

常盤　　：募集要項を見るのですが、委員会メンバーでどの様な案が出ましたか？まず、委員会で考えてみましたか？

盛田　　：まだ、委員会の方では出来ておりません。

常盤　　：もう２回目ですが、１回目出す前に委員会でやってないと実際に委員会で揉んだことになるのか？方向が正しいのか？まず委員会の中で盛り上がってくるような内容にしないと共感は得られないと思いますので早急に行って頂けましたらと思います。

盛田　　：事前アンケートも出させて頂いたのですが、その様な感じで委員会の方にも意見を頂きたいと思います。

井上　　：配布リストを見たのですが、ただ広報しても集まらない。まちづくりに興味がある若い人なのかまちづくりに興味のない若い人なのか。ターゲットをもっと絞ったうえで配布リストを考えてもらえればと思います。あと、ＳＤＧＳについて記載がありますが、どんな工夫をしてどのゴールに繋げるのか？もう少し一つ一つを細かく考えて記載するようにしてください。

盛田　　：具体的なターゲットの設定ですが、この後学校への訪問も考えておりますが、効果的な広報、参加促進ができるようにします。ＳＤＧｓについては、具体的に表記できるように内容を揉んでいきたいと思います。

竹下　　：コンテストをする理由はなんですか？

盛田　　：事業計画にも謳ってあるのですが、考えて頂く機会をもって頂くことで郷土愛に繋がると思ってコンテストという形式を使用させて頂きました。

竹下　　：コンテストはわかりやすくないといけない。まちづくりのコンテストをします。としたときに一般の人はまちづくりの案なんてもってないです。ＪＣ会員ですら持ってないのに出来ると思いますか？

盛田　　：確かに難しいと思います。

竹下　　：コンテストには目的がある。コンテストが悪いわけではないが極論を言えば自分の郷土の誇りの絵を書いてもらうなど、人が関わりやすい様に考えないと応募は集まらない。コンテストですべてを解決するのは難しい。コンテストで情報を集めて政策にもっていくという風に考えないと。コンテストで出たものをやるのであれば、そこにＪＣは必要ない。またコンテストに出せる様な案を持っている人は自分でやっている。コンテストをするのであれば、子供でもわかる様なものにしてください。

盛田　　：ありがとうございます。コンテストに拘っていたわけではないのですが、ふわふわしておりましたので改めて応募しやすいものを考えてきたいと思います。

竹下　　：応募する人からどんな情報が欲しいのか？何の情報が欲しいのかを明確にしたうえでしないといけない。美人コンテストは芸能事務所が売れる人財を入れるためという風に目的がある様にコンテストをする際は、対象者からどんな情報が欲しいのかを明確にしてください。

盛田　　：今一度、委員会で意見を頂きまして考えてきたいと思います。

前田　　：こちらも正副で、まったく同じ意見が出ている。委員会でもやってみたのか？コンテストの難しさ。現状では難しいであろうという正副での見解でありましたので、対外目的にあるように未来を担う人材育成をする。囲い込んで教育をしてその中でコンテストをするという形が良いのではと思う。背景、目的に対してコンテストが最善なのか？手法ありきにならずにもう一度ストーリーを考えてみてください。

藏元　　：コンテストに縛られていた感じはあったのかなと思います。事業計画に謳ってはあるのですが方向修正をしなければ失敗してしまうのではと思います。あと、委員長も書いておりますように仕組み作りをしますとあります。所信にも政策を立案し若い世代が実行すると記載しています。まずは自分たちが仕組みづくりをして政策立案そこに運営として参画頂くなど考えてもらえましたらと思います。

盛田　　：事業計画に記載しているコンテストに引っ張られていたと思います。仕組み作りについて話をしたいと思います。

南郷　　：これで誰もが夢を描けるまちづくり事業計画並びに予算（案）を閉じさせて頂きます。

鈴吉　　：延長動議

セコンド：田上、板元

２３：４５までの延長で可決。

重野　　：休憩動議

セコンド：田上、板元

２３：１５までの休憩で可決。

協議事項３：２０１９年度６月例会計画書並びに予算書（案）について

鈴吉　　：先ほどの４月例会と同じく例会の中でメインプログラムを行う形ですので、背景・目的に関しては、修正させて頂きたく思います。

重野　　：今年の研修事業への参加意欲を高めることを目的としています。使用時間が９０分となっておりますので、進行表をスマートにしております。

板元　　：参加促進のところですが、ＦＡＸでの案内送信をしないですべて電話連絡をするということでよろしかったでしょうか？

重野　　：ＦＡＸについて、返信率が悪い現状がありますので、ＬＩＮＥ並びに電話での連絡とさせて頂きたく思います。

木野田　：近年、出席率が悪いという根拠はなんでしょうか？

重野　　：根拠として１００％達成がないということで低いと考えていますので、１００％に近づけられるよう努めたいと思います。

木野田　：参加に関して消極的な会員に対しての工夫はありますでしょうか？

重野　　：仲の良い会員からの連絡が効果的であるというアンケート結果がありますので確実に試行していきたく思います。

木野田　：会員は得るものがあれば来ると思います。今回講師をお呼びするので、社会人基礎力とはなにか？周知していくことが出来れば良いと思います。

重野　　：概要書を作成の上周知を図りたいと考えておりますので、計画書にも記載したいと思います。

井上　　：選定理由をみさせて頂いてのですが、リーダーシップや経営コンサルの内容での研修を考えていますか？

重野　　：内容は社会人基礎力の周知で考えております。

井上　　：副理事長からもありましたが、事前に伝えらたら良いと思います。

常盤　　：今後の打ち合わせもあると思いますが、委員会メンバーの共感とメンバーから説明が出来るように重野委員長らしく皆を引っ張って頂けましたらと思います。

前田　　：拝見目的に関して、研修事業への参加意欲を高めるとある中で、唐突に講演という手法が出てくるのですが、どの様に高めるのかが見えまぜん。学んできた内容をもっと参考資料にいれた方が良いと思います。意欲を高めるとしているので参加促進に対しての意見も出ると思います。

重野　　：研修に繋がる案内から内容まで考えてきたいと思います。

藏元　　：直前からもあったところですが、目的はちょっと違いますよね。結果、参加意欲が高まったという形が良いと思います。アクティブに動いて頂き実際に行動され研修にも出席してきているのは素晴らしいことだと思います。引き続きよろしくお願い致します。

南郷　　：２０１９年度６月例会計画書並びに予算書（案）を閉じさせて頂きます。

協議事項４：２０１９年度１月通常総会報告書並びに決算書について

鈴吉　　： 引き続きよろしくお願い致します。今年度、１発目の報告書となりベースとなるかと思いますので忌憚なきご意見をよろしくお願い致します。詳細は委員長より説明します。

重野　　：アンケートを基に作成させて頂きました。検証の部分を見て頂けましたらと思います。

木野田　：アンケートは次回の総会では内容を変える予定でしょうか？

重野　　：アンケートについては、顧問からもありましたようにより精度の高い内容で意見を頂けるように記載しております。

田上　　：実施上の問題点ですが、事前準備の工夫２についてですが、出席者が３ぶんの２に達したので開催出来ましたというものだと思うのですが委任状も含めているのでしょうか？

重野　　：委任状が１００％ですので総会は開催できるという認識でございます。

鈴吉　　：３分の２以上の出席についてですが、当日は越えていたと認識しております。議決は出来ますが、３分２以上会場にいなければ総会の開催が出来ないのか確認したく思います。

重野　　：踏まえて、なぜ１５分前までに来て頂かないといけないのかを記載の上、次回から案内をしたく思います。

井上　　：問題点での審議後に早めに発送する件への対策は色々と記載されている中で、何を引継ぎたいと考えていますか？

重野　　：審議前から発送準備に取り掛かり、即時発送できるよう準備してくださいという引継ぎです。

井上　　：その補足資料に関しては、引き継ぎに記載されていましたか？

重野　　：今回、補足資料に関しては委員会の方で作成させて頂きました。次回に関しては執行部含めたうえで作成したいと思っております。

常盤　　：追加のアンケートがあったと思いますが、次年度の委員長が参考にする際に参考資料はなかなか見ないかと思いますので、議案の引継ぎ欄に記載した方が良いと思います。

重野　　：追記させて頂きます。

前田　　：次の総会で、しっかり対応してください。楽しみにしています。

藏元　　：抜けが散見されますので、全体的に見てみてください。新春懇談会との同時開催についてはメリットデメリットありますので、総合的に判断できるように資料で残して頂けましたら来年が判断しやすいかと思います。

南郷　　：以上で、２０１９年度１月通常総会報告書並びに決算書を閉じさせて頂きます。

監事講評：常盤大和くん

　　： お疲れ様です。第２回理事会だったのですが、専務、事務局長が不在ということもありましたが準備不足があったと思います。審議案件に関しても

監事講評：井上正樹くん

　　： 第２回理事会となりましたが、仮会員２名の審議もあり良かったのかなと思います。

次回開催

平成３１年　３月１２日　　第３回正副理事長会議

平成３１年　３月２６日　　第３回理事会

１７．閉会宣言　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　田上　俊介　　君

議長・理事長（代表理事）　　　　藏元　国明　　　　　　　　　㊞

議　事　録　署　名　人　　　　　木野田　幸平　　　　　　　　㊞

議　事　録　署　名　人　　　　　板元　幸仁　　　　　　　　　㊞

監　　　　　　　　　事　　　　　常盤　大和　　　　　　　　　㊞